



# MAKYO 芸術協会会報

発行所：(一社) MAKYO 芸術協会 馬驍事務所 〒121-0815 東京都足立区島根 4-21-18 MAKYO ビル  
電話：03-5851-9455・9466 http://www.makyo.jp —第26号— 2020年8月30日 不定期発行

馬驍水墨画設立 40 周年記念

## 第 15 回 MAKYO 国際芸術大賞展

会期：2019年 11月 27日(水)～ 12月 8日(月) 休館日 12月 3日  
会場：国立新美術館 1階 D 室 (東京・六本木)  
開幕式：2019年 11月 27日(火)  
主催：MAKYO 国際芸術大賞展実行委員会 MAKYO 芸術協会 MAKYO 美術館  
後援：中国大使館文化部 / 足立区 / 足立区教育委員会 / 日中文化交流協会 /  
(公社) 日中友好協会 / (株) ユーキャン / (株) 日貿出版社 / 日本肖像美術館  
シンガポール美術総会 / 瑞麗芸術協会 / 創美協会 / 中文導報 / (株) 華人チャンネルジャパン  
協力：静岡水墨画連盟 協賛：青島ビール / 茅台酒 / O:TU / (株) インタニヤ

### 実行委員会メンバーの紹介

【顧問】今井 宏：(元衆議院議員 総務副大臣) / 肖 峰：(元 中国美術学院院長兼教授)  
西村 修一：(彫刻家) / 陳 達明：(文学博士、大東文化大学講師)  
【実行委員長】島尾 新 (日本美術史家、美術評論家、学習院大学教授)  
【実行副委員長】馬 艶 (画家)  
【審査委員長】味岡 義人 (美術評論家)  
【審査副委員長】大竹 卓民 (画家・東京芸術大学大学院非常勤講師)  
【審査委員】東 強 (洋画家) / 三浦ひろみ (日本画家) / 沈 強 (書画家) /  
陳 達明 (文学博士、大東文化大学講師) / 中野慶一 (プリンティングディレクター)

### 実行委員長 島尾 新



馬驍水墨画会の設立 40 周年を記念して、第 15 回 MAKYO 芸術大賞展を開催する。馬驍先生が新天地を求め、御母堂の故郷・日本へ渡ったのが 1979 年。それから 40 年、独自の「潑墨」によって水墨画の世界に新たな表現を与え、また帰国の年に設立した馬驍水墨画会で多くの人々に水墨の楽しさを教え、その墨の普及に尽力した。私は実行委員長という柄ではないが、心から敬愛する馬驍先生の記念の年ということでお引き受けした。1999 年に始まった芸術大賞展も 15 回という節目に当たり、規模を拡大して会場を新美術館へと変えて開催する。馬驍水墨画会の自由な気風を反映して、日本と中国からさまざまな画風の力作が揃い、またシンガポールからは未来を担う子供達の絵も送られてた。もちろん、馬驍先生の潑墨も合わせて展示する。変化に富んだ水墨画の世界をご覧頂けたはずです。

MAKYO 芸術協会顧問

### 肖 峰

中国美術協会顧問  
浙江省美術家協会顧問

墨韻有声 (墨韻に声あり)  
水色伝情 (水色に情転じ)  
開画壇新紀 (画壇の新世紀を開き)  
創芸苑先声 (芸苑の先声を創する)  
書為馬驍兄之画 (馬驍兄の画の為に書す)



### ごあいさつ

MAKYO 芸術協会代表  
馬 驍



本年、お陰様をもちまして「馬驍水墨画会創立 40 周年」という記念の節目を迎えることが出来ました。ひとえに長年に渡りご指導、ご後援、ご尽力いただきました、国内外の多くの美術史家、美術評論家、画家、書家、彫刻家、日中友好関係団体、出版社など関係者の皆様、ならびに会員の皆様の鋭意結集の賜物でございます。心より御礼申し上げます、誠にありがとうございました。馬驍水墨画会は 1979 年に静岡市で発足後、現在は本部を東京に移し、水墨画の普及と地位向上

を図ると共に、日中両国の文化交流を基本理念に 40 年に渡って活動しており、今後も芸術性を高め、個性的な水墨画を創り出す新鋭作家の養成に尽力してまいります。芸術性に対する飽くなき探究心を広く知っていただき、この素晴らしい伝統芸術を受け継いでいく仲間を募り、共に学び共に高めていくことが協会活動の目指すところです。2019 年 第 15 回「MAKYO 国際芸術大賞展」は、馬驍水墨画会創立 40 周年記念の冠のもと国立新美術館という華やかな舞台で威風堂々開催する運びとなりました。実行委員長には島尾新先生、審査委員長には味岡義人先生にご就任いただきました。感謝しております。日頃の成果を存分に発揮した会員の皆様の作品群、研ぎ澄まされた作家の皆様の結晶の数々、海外からの個性派揃いの作品、国際公募として様々に斬新な作品も多数集結し、現代に羽ばたく国際芸術にふさわしい 12 日間の特別展でございます。



# 開幕式ごあいさつ



味岡義人 (審査委員長)



大竹卓民 (審査副委員長)



馬 艶 (MAKYO 芸術協会副代表)



王 敏 (法政大学名誉教授・作家)  
国立新美術館前館長 青木 保氏の代理として出席



王 荻地 (MAKYO 芸術協会副代表)



田口婦美子 (副会長、在籍40年)

## 馬驍先生より感謝の花束贈呈

国内外の歴代21名の実行委員長の中で開幕式にご出席の先生方へ・・・



今井 宏 30年来のサポーター  
元政務副大臣 (元草加市長)



加山 哲也 (加山又造先生のご子息、陶芸家)



味岡 義人  
(第1回実行委員長、美術評論家)



西村 修一 (第10回実行委員長、彫刻家)



中西 舞  
(第12回実行委員長、舞踊家、書道家)



李 文培 (第13回実行委員長、水墨画家)



マークエステル  
(第14回実行委員長、フランス人画家)



島尾 新 (第15回実行委員長、東洋美術史家)



遠路、開幕式出席のためにシンガポールから来日された受賞者



島尾実行委員長よりフランスより出品されたJean-Pierre氏に実行委員長賞授与



ご来賓各位

「MAKYO 芸術協会」は、北京に生まれた馬驍が1979年に母の故郷・静岡に帰国し、日中文化交流の架け橋になることを願って設立した「馬驍水墨画会」に始まり、長きに渡った活動を積み重ねたきた本年、設立40周年を迎えることができました。そして令和・新時代を迎え、水墨画を中心に多種多様に広がる国際芸術活動を展開するために、会の名称を「MAKYO 芸術協会」と改め、第15回「MAKYO 芸術大賞展」(国際公募)を開催する運びとなりました。本会は設立以来、日本国内はもとより上海、ロサンゼルスなどで「日中水墨画文化交流展」を開催し、国際的にも名声を高めてきました。その成果を踏まえ、1999年、「日中水墨画文化交流展」を「馬驍芸術大賞展」と改め、水墨画の芸術性を深く追求しつつ今日に至っております。

協会代表の馬驍作品は、水墨画が日本・中国共通の文化であるとの認識のもと、中国伝統画法を基礎として、日中の文化と西洋美術を融合した独自のもので、世界で高い評価を獲得してきました。

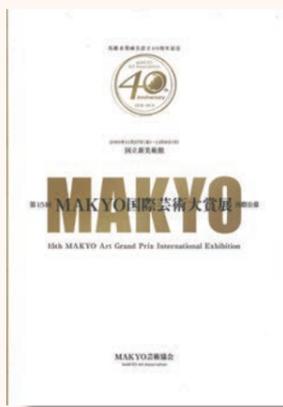
※「馬驍先生は、非凡な描写力と水墨の妙とを融合させて、水墨の新境地を開かれました。その素晴らしい作品群は、水墨の世界に新たな光を投げかけるものです」(日本美術院・平山郁夫先生)

※「馬驍さんは、リアリスティックな具象絵画を描きながらも、非常にシュールリアリスティックで斬新な手法を洗墨に生かすなど、新しい水墨画を作り出そうと様々な努力を重ねておられます。こうした飽くことのない研究心には、大変敬服します」(創画会・加山又造先生)

この創作活動は、そのまま会の教育理念に結晶し、水墨画の普及と一層の地位向上、また新時代にふさわしい水墨画を生み出すための指導普及活動に尽力し、啓蒙のための書籍も20冊に上ります。その結果、会員一人ひとりの制作意欲も高まり、個性あふれる新しい作品も誕生し、2013年には『現代水墨作家作品集』を出版することができました。この指導普及活動はまた、会の運営のために温かいご支援を頂戴した美術関係者・メディアをはじめとする日中の幅広い方々へ感謝の気持ちを具現するものでもあります。



馬驍作品「笛聲」のカラージュポスター



出品作品図録



皆様に感謝を述べる馬驍先生



馬驍先生と王荻地先生に会員より花束を贈呈。

### 報道関係

- 新美術新聞
- 陽光導報
- 中文導報
- (株)華人チャンネルジャパン
- 日本新華僑報
- 日中商報
- 日中通信
- 中日新報
- CCTV 大富

### 各社が大賞展情報を掲載



新美術新聞



CCTV 大富

招待作家作品



「慈愛」 東強



「飛鴻踏雪泥」 豊平峰雲



「オクラ」 岸 ユキ



「熱帯黄金雨及翎毛」 梁振康



「韋應物滁州西澗詩」 沈強



「花と蝶」 増永広春



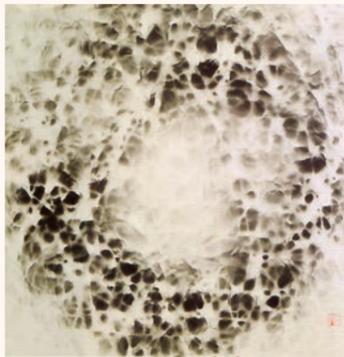
「阿蘭陀万歳」 牛草芳春



「月移壁」 大竹卓民



「坐寒盜馬」 李文倍



「絆」 久山一枝



「雲南の棚田」 馮学敏



「恋31719」 張瑞麗

大賞展



展示会場受付



開幕式ご来賓あいさつ王敏女史



オープニングレセプションの心のこもったおもてなし



岸ユキ先生を囲んで



元NHKアナウンサー吉田広ご夫妻と出品者



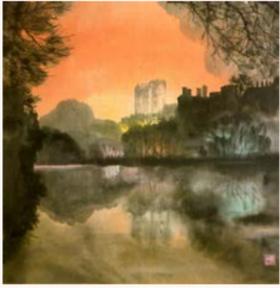
来場者



大賞展準備作業に駆け付けた皆さん



審査会(東強、大竹卓民、馬駿、沈強、味岡義人先生)



馬駿水墨画会  
40年を迎えて  
田口 婦美子  
(静岡県)

### 師は永遠に輝く

一筆光る 心のままに気力の炎 輝かす  
一心不乱のその姿 優しさ感じる その姿  
日本語片手に 墨が舞う 言葉を越えた 愛がある  
アートの道を 切り開き 生きて行く 永遠の夢

歴史と未来へ 視点を伸ばす まじわり通う 筆と墨  
芸術の花は 咲き乱れ 努力の花も 咲き乱れ  
舞い踊る筆の 切れ味は 幽玄の世界 導かれ  
表現の自由 果てしなく 希望の道 永遠の夢  
(原案 大倉泰子、田口婦美子)

1979年に静岡で馬駿水墨画会が設立され開設当初は20名程度でしたが、当初の手本はすべて馬駿先生の手描きのものでした。1980～1990年に静岡産業会館などで「馬駿水墨画会会員展」を6回開催されました。

1991年に東京池袋の馬駿水墨画展示館が開設され水墨画教室が開かれた。初級講座を受講、基本的な水墨画の描法を学び、会員は北は北海道、南は沖縄までとなりました。通信講座も初まり、手本を元に描いた作品が届き、画会師範が講評と解説文を記入して返送し、初級の手本が修了すると中級・上級と進んでいきました。1993～1998年「日中水墨画交流展」6回開催、国内だけでなく上海およびロサンゼルスでの作品展を開催。2004年東京芸術劇場に於いて行われ「第5回馬駿芸術大賞展」では画会作家の個展が前期と後期に分けて展示された。多くの方々に見学していただき良い経験となりました。このような行事に会員の方々が自己の描法のベストを表現した作品のレベルアップにより大変好評を得ることができました。海外での作品展のツアーでは先生と会員との親睦を深め、夢の様な時間を過ごしました。

「師は永遠に輝く」は、私達生徒の心情の表現です。2019年の六本木の国立新美術館での「第15回 MAKYO 国際芸術大賞展」は、画会設立40周年の記念展となり、その感動が記憶として映像が一生残って行くと思います。



新時代の MAKYO  
国際大賞展に思う  
水上 玲  
(東京都)

馬駿水墨画会設立40周年記念を迎えて新時代に相応しく、2019年に名称をMAKYO芸術協会と改め、画会設立40周年記念企画として念願の国立新美術館にて第15回 MAKYO 国際芸術大賞展(国際公募)を開催することになりました。会場入り口には馬駿先生の数々の大作を展示、その気宇壮大な技法表現に感動し興味を抱く方々も多く印象的でした。

公募展は、水墨画を中心に絵画のジャンルを広げ、自由な発想で個性豊かな表現の作品が数多く出品され、来場者からは「絵画の面白さを身をもって感じ、意識変化ができた。」とご好評を頂きました。

そして馬駿ワールドを、このステージで再び協会OB会員の出品者共々拝見出来た事は先生方との旧交を温める人生の良いタイミングであったと思います。

## 画会設立40周年 記念展に寄せて



「何者ぞ」

「何者ぞ」の  
制作にあたり  
八幡 佐起子  
(奈良県)

大宮エリー作「寂寞(じゃくまく)」という詩をベースに、「能」の作品が2014年5月、京都上賀茂神社に奉納されました。作曲者であるヴァイオリニストと、その曲に舞を振り付け、自らが舞う能役者、この二人の芸術家が、どのように詩を表現していくのか?

どのように、舞台を作り上げていくのか?  
その制作過程を追うドキュメンタリー番組を拝見し、この作品に関わっているひとたちの情熱、気迫に強く感動しました。何とか、絵に表現できないかと思いを巡らせ。「寂寞」とは、寂・寞 ともに、ひっそりとした寂しさ。全てに満足しているのに感じる寂しさ。この世に生を受け、一生懸命に生きてきた。が、ふっと思う。私とはどういう存在なのか、私はどこからきて、どこへ行くのか。高野山(和歌山)を開いた空海が、「生まれ、生まれ、生まれて、そのはじめに暗く、死んで、死んで、死んで、その終わりに暗し」とおっしゃったとか。私とは、何者なのか、自問している心の葛藤を炎で表現いたしました。



「武陵源」

創作作品の  
制作について  
新田 邦子  
(埼玉県)

私は制作する際、心がけている事は、(と言うより願望ですが) 展覧会では沢山の作品が並ぶので自分の作品の前を素通りされることなく、少しでも足を止めて鑑賞してもらえるような作品を描けたらと言う思いで取り組んでいます。

今回の作品は中国武陵源を題材にしました。武陵源は太古の時代海底が隆起して作り上げた奇岩奇峰がはてなく続く仙境です。その雄大かつ神秘的な景観を残しておきたいと思い描いたものです。苦労したのは50号と言う大きさにいかにまとめるかと言うことです。まず写真や資料から紙にスケッチ風のものを描き、それから墨で小さなサイズの下図→20号→50号へと徐々に大きくしていきましたが、それぞれの部分をただ拡大すれば良いというものでもなく、まとめるのに苦労しました。また今までは中国画仙紙に描いていましたが、今回は小川和紙を使用しました。すると画仙紙の滲みとは違う水と墨の反応の仕方自分で思い描く水と墨の流れる表現ができなかったように思います。

画の中に動きのあるもの(大気感、霧とか雲)が表現できて伝統を踏まえながら現代に通用する水墨画を描くことを目標にしています。



作品について  
服部 京子  
(東京都)

「薫風」

今回は鯉の絵を描きたいと考えていましたので、以前旅行先で撮っておいた写真を参考に、構図を定め、先生にアドバイスをいただき墨彩で描きました。

初夏の緑と水面に吹く爽やかな風に誘われるように泳いでいる錦鯉。作品名「薫風」にしました。反省として、風、光、波紋等の陰影をもっと表現出来たら良かったのですが、勉強不足を痛感しています。会場・国立新美術館で「画会設立40周年記念大賞展」に参加させて頂き大変嬉しく、ありがとうございました。



「プレリュード イン ブルー」

横山 久美子  
(東京都)

プレリュードインブルーは私が作品のテーマとして温めていた素材である。鉄線原種でブルーが爽やかな花である。背景には神社の境内側にあり、赤い鳥居が透けて見える。夏祭りで浴衣で賑わう風景を頭の隅に置き、初夏の爽やかな風が吹き抜けていくような作品ができればと制作した。構図は上部を重く、下に余白を取ると決めていた。苦心したのは花の色合いが思うように出にくかったこと。バックをどのように入れるかなど・・・

王荻地先生の適切な助言をいただき、「あつ、そうか!」と何とか大筋は分かったものの技術が追いつかず、一枚また一枚と書いているうちに思っていたものに少しづつ近づき気がして、結果30枚程になっていた。まだまだである。作品の創作は苦しみから、やがて楽しみとなっていました。



「森の朝」

更なる発展を願って  
廣住 美智子  
(静岡県)

馬駿水墨画会設立40周年記念、第15回 MAKYO 国際芸術大賞が国立新美術館ギャラリーで開催され、多くの来館者を迎え大盛況に終わったことを会員の皆様とともに喜び申し上げます。この記念すべき瞬間に立ち会ったことを本当に嬉しく思います。1979年馬駿水墨画会設立時に教室に入会する機会に恵まれ以来延々と40年も月日が経過それは私の人生の半分以上を占めています。

静岡市の新中国文具店2階の狭い教室を思い出します。小学校から高校まで続けていた絵を描くことを中止していた私の夢は、結婚したら絵を始めた。その気持ちを覚えていた主人が書道用品店で水墨画教室の話聞いて申し込みしてくれたのがきっかけでした。初めての水墨画との出会いです。40年の間には様々な人との出会いと思い出があります。

静岡の教室から始まった芽が、ひたすら大きく開花する事を願う先生の思いがあつて、ここに至るまで携わられた皆様方の労苦と歴史を想い、唯々深く敬意を抱いております。MAKYO 芸術協会の先生方の温かく熱心なご指導のおかげで会員の中には水墨画教室開いたり、作家として活動する方も誕生致しました。40周年記念展を契機として更なる発展を祈念いたします。

また、私に水墨画を学ぶ時間を作ってくれた家族に深く感謝しています。

受賞作品



「森の光」

大賞・木村紅峰



「望礁溪」

準大賞・福田隆司(驍勇)



「雲海の熊野三山」

協作家・道江義頼(頼道)



「朝霧の棚田」

中国大使館文化部賞・御子柴洋子



「ラズ教会の後より」

実行委員長賞・ジャン・ピエール



「逍遙遊」

肖像画美術館賞・月岡貞夫



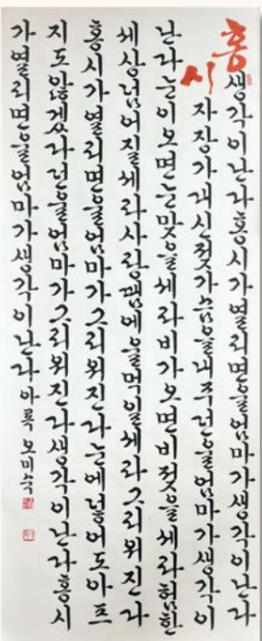
「季節のおとずれ」

協作家・鈴木静江



「晩鐘」

協会OB作家・上阪幸市



「赤柿」 中国大使館文化部賞・呉美淑



「好日」 協会OB作家・高柳雅子



「落紅無声」

大賞展銀賞・王治洪



「好日」

協作家・鎌島純子



「イースター島の黙示録」

日中友好協会賞・鮫島純子



「表現花」

写真部門金賞・李英淑

MAKYO 芸術協会代表

馬 驍

2020年 協会活動について挨拶



協会情報 QRコード

厳しい暑さの折り、2020年初めに発生したコロナウイルス感染症ニュースで不安な日々をお過ごしのことと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

この様な状況により本年度の「第16回 MAKYO 国際芸術大賞展」は残念ながら中止とさせて頂くことになりました。また各種教室も休講しておりますが、この状況が一日も早く収束し、再開できることを願っております。

ご報告ですが、MAKYO 芸術協会は本年2月28日付けで「一般社団法人」の名義を取得致しました。皆様と共に芸術活動を通じて国際交流と社会貢献に努めて参る所存です。

さて、協会本部では maky.jp ウェブページ更新し、新しい時代に相応しい情報を満載した活動をネット配信して参ります。新サイトに「協会ギャラリー」を特設しており、会員様は誰でも、ご自慢の作品を掲載でき、楽しく相互学び合い、交流の場に因る予定です。ぜひ皆様のご活用を心からお待ちしております。

日々困難に直面しておりますが、共に前向きに希望を持って乗り越えて行きましょう。



年末には MAKYO ビル1階に「MAKYO 美術館」を開館致します。皆様との交流を楽しみにしております。

◀写真は開館準備中の外観

# 芸術活動

★馬艶 長崎へ

## 日中美術交流展

中日和平友好条約締結40周年記念

会場：長崎県美術館

会期：2018年10月6日(土)～10月21日(日)

※馬艶作品「金秋」が展覧会宣伝ポスターに選抜

主催：長崎県美術館。

後援：中華人民共和国駐長崎総領事館、長崎県、

九州日中文化協会、長崎県美術協会、

長崎県美術館で日本

と中国の芸術家による美術展。中国人画

家11人、長崎県美術協会会員90人が

出品し、水墨画、日本画、洋画、彫刻、

書、工芸、写真、デザインと8部門、

150点の展覧会。



## 馬艶講演会

主催：武漢大学日本校友会(東京)

期日：2019年10月19日

武漢大学日本校友会での講演集合写真



## 2020 展覧会 予告

(コロナ感染症の影響により急遽中止する場合があります。)

### 馬艶個展 — 墨を彩る —

会期：10月22日(木)～28日 10:00-18:00

会場：ホテル椿山荘東京アートギャラリー

★馬驍先生と王荻地先生 北京へ

## 地平線画会—2018 北京展

会場：中国華僑歴史博物館

会期：2018年10月12日～10月21日

地平線画会は日本、アメリカ、イギリス、フランスなど海外で長年居住し、

活躍中の同じ芸術理念を持ち、国内外で多くの栄

誉と賞を獲得した画家たちで構成されている。



国際的に活躍する画家仲間 趙志田、夏碩頊、馬驍、劉巨徳、王荻地、胡永凱



王荻地チャリティー講座「水墨の記憶」

★馬驍・王荻地・馬艶三人展

## 美と技をつなぐ

会期：2019年7月～開催中

協力：MAKYO 芸術協会

会場：湯楽城ギャラリー

〒286-0221

千葉県富里市七栄 650-35

●お問い合わせ：  
—湯楽城—  
0476-91-6866



シャッター画は馬驍作「紅葉」制作：馬艶

★馬艶 上海へ

## 超・格局—2019 上海・東京芸術交流展

会期：2019年9月16日

～9月26日

会場：上海梧桐美術館

本展は日中芸術家たちの

交流展伝統的な書道作品

もあれば、水墨画も油絵

もあるという日中芸術家

28名による60作近い作品

を展示。《超・格局》

とは、芸術にボーダーは

ない、言語に分け隔てな

い、形式にとられない

という意味です。



★椿山荘東京展

会期：2019年5月9日(木)～15日(水)

会場：ホテル椿山荘東京アートギャラリー

## 二人展 馬驍・王荻地



## 馬艶水墨画展

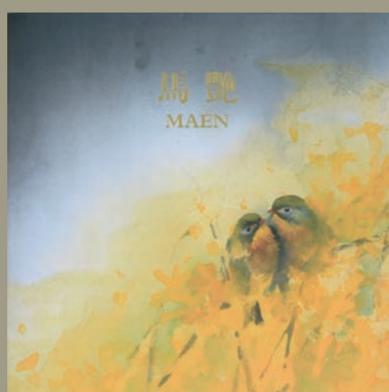


タウン誌「とも」の表紙絵担当10年を経過、提供した作品は110点となり継続中。

世界規模のコロナウイルス蔓延により、気軽に旅行もままならないことから、今年是世界の名所を描くことにしました。自粛での仮想旅行になればと。。。。

馬艶

## 「馬驍・王荻地・馬艶」新画集 (定価：1000円 内税)



## 推薦図書

著者：島尾新  
「水墨画入門」  
岩波新書



「余白」の解説として馬驍作品を掲載 (P56)



スケッチ風景



スケッチ風景



スケッチ指導

### 協会活動

## 富士山周辺スケッチツアー

2018年9月6日～7日

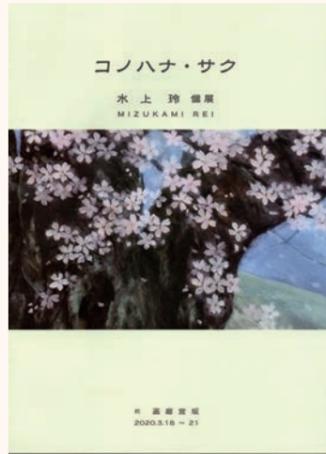
馬 駿・王 荻地・馬 艶を含め参加者 33 名は富士山周辺の名所で自由にスケッチを行い宿泊所で、先生より創作指導を受ける。会員相互の親睦を深め笑顔に溢れた研修会となりました。また後日アトリエにおいてスケッチから作品を仕上げるポイントを学び、この旅の素材とした創作作品も MAKYO 国際芸術大賞展に数点出品されました。



### 会員活動

#### ★水上 玲個展

会期：2020-3-16～31  
会場：銀座宮坂画廊



画集「コノハナ・サク」出版。

(講師活動)

#### ★白井道子

第7回風済会水墨画展回忌  
会期：2019-11-5～11-10  
会場：豊川市桜ヶ丘ミュージアム



(講師活動)

#### ★田口婦美子・鈴木静江

第19回「水墨・墨彩画合同交流展」  
会期：2019年9月4日～9月10日  
会場：静岡市民ギャラリー  
後援：MAKYO 芸術協会、日中文化交流協会  
静岡新聞社、静岡放送、静岡リビング新聞社  
出品者：静岡市近郊7教室合同 85 名



#### ★八幡佐起子

「精霊」文部科学大臣賞  
全国公募第三回日美展(水墨画部門 総合展)  
会期：2019年8月8日～17日  
会場：国立新美術館

## MAKYO芸術協会 教室案内 (見学随時)

※コロナウイルス感染症のため現在休講中ですが収束次第再開いたします。

<b>水墨画・墨彩画講座 毎月第1週 (原則) 受講会場：(社)日本美術家連盟・美術家会館5階 住所：東京都中央区銀座3-10-19</b>			
① <b>Aコース</b> ：馬 艶先生 (土) 12:00～14:00	③ <b>Cコース</b> ：馬 艶先生 (月) 11:00～13:00		
② <b>Bコース</b> ：馬 艶先生 (土) 15:00～17:00	④ <b>制作指導コース</b> ：王荻地先生 (月) 13:30～17:00		
<b>MAKYO美術館 教室 受講会場：MAKYOビル2F 東京都足立区島根4-21-18 MAKYOビル</b>			
<b>王 荻地「創作少人数コース」</b>	<b>王 荻地「水彩画コース」</b>	<b>東 強「油彩画コース」</b>	
(前期：4・5・6・7月) (後期：9・10・11・12月) 毎月第4月曜日 13:30～16:30	毎月第3土曜日 13:30～15:30	<b>油彩画写生</b> 毎月第4土曜日 10:00～12:00	<b>油彩制作指導</b> 毎月第4土曜日 13:30～16:30
●お問い合わせ：(一社) MAKYO 芸術協会 馬駿事務所 〒121-0815 東京都足立区島根4-21-18 Tel.Fax. 03-5851-9455 Tel. 03-5851-9466 ホームページ <a href="http://www.makyo.jp">http://www.makyo.jp</a> E-mail: <a href="mailto:makyoinfo@gmail.com">makyoinfo@gmail.com</a>			

● MAKYO 国際芸術大賞展にご後援賜りました各位と開幕式についてテレビや新聞で報道していただいた各方面の皆様にご礼申し上げます。  
● 大賞展に賛助して頂きレセプションに「青島ビール」「茅台酒」「ニュージラードワイン」をご提供頂き会員一同感謝申し上げます。  
● 大賞展運営に協力された会員の皆様と受付業務にご協力頂いた大野征、長谷川久子さん、馬駿事務所での準備作業に携われた皆様にご感謝申し上げます。

### 編集後記

### 会報編集者

馬 艶・田口婦美子・水上玲

### 新会員紹介

室 晴子(東京) 下 晴方(東京)  
片岡千鐘(東京) 王 萌飛(東京)  
藤原さつき(東京)

### 役員紹介

常任理事 御子柴 洋子

- (第15期) — ● 道江義頼 ● 坪内澄代
- 柴田玲子 ● 柴田玲子
- 坪内澄代 ● 白井道子
- 鎌島純子 ● 西本佳代
- 白井道子 ● 外山幸子

### 2019 創作少人数コース 受講生 (アトリエ)

● は修了証発行

- 事務総監督：牛草由紀子
- 計：御子柴洋子
- 運営委員長：王荻地(画家)
- 東 強(洋画家)
- 運営副委員：竹井嘉郎
- 運営委員：田口婦美子 水上玲
- 道江義頼 御子柴洋子
- 木村紅峰

第15回 MAKYO 国際芸術大賞展

# MAKYO 芸術協会主催展覧会の歩み (1979～2019)

Introduction to the MAKYO Art Association (former Makyō Ink Wash Painting Association) and the MAKYO Art Grand Prix International Exhibition.

Born in Peking, Makyō returned to his mother's hometown in Shizuoka, Japan after the reestablishment of normal diplomatic relations between Japan and China in 1979. To heighten cultural exchanges between both countries, he founded, that year, the Makyō Ink Wash Painting Association of which the main office is located nowadays in Tokyo.

With the goal to popularize and develop ink wash painting, educate outstanding talents, and make a difference through cultural exchanges, Makyō hardworked a new style of ink wash painting. He integrated Japanese culture and oriental art using techniques of the Chinese art tradition.

From 1979 to 1999 the Makyō Ink Wash Painting Association carried out activities on the international art stage in Japan, China, and in several countries in Europe and America. One of the most important events, the Japan-China Ink Wash Painting Exchange Exhibition has been held 15 times in unique places like the Shizuoka Art Museum, Tokyo Art Theatre Gallery, Tokyo Art Center, Shanghai Art Museum, and Asian Art Centre in Los Angeles.

In addition, Makyō Ink Wash Painting Association has been giving various lectures on arts, published collections of books on painting works, organized visits in many places in China, with that particular emotional attachment between China and Japan. Thanks to those activities the level of creation by the members of the association has been raising year by year.

Through deepening the study of artistic creation, improving the level of ink wash painting and promoting the international art exchange, Makyō Ink Wash Painting Association won unanimous praise from well-known art historians, art critics, painters and sculptors from Japan and China. With their guidance, The Japan-China Ink Wash Painting Exchange Exhibition was renamed as MAKYO Art Grand Prix Exhibition in 1999. Makyō's artworks are well known in Japanese ink wash painting circles.

Japanese painter Michiko Hirayama commented, "Makyō combines his extraordinary modeling ability with the mystery of ink wash painting and opens up a new realm to it. Many of his masterpieces are just like a new light in the world of ink wash painting."

When commenting on Makyō's paintings, Japanese painter Matazo Kayama wrote "Makyō innovated splash-ink paintings with plenty of imagination and surrealistic spirit while creating realistic figurative paintings. He made many efforts to revolutionize ink wash painting. His diligence and persistent attitude are admirable."

Even highly praised, Makyō never stops exploring and innovating the mysterious world of ink painting. Under the guidance of Makyō, Ou Tekichi and Maen, the members of the Association, from all over Japan, get passionate about their work, united as one by Makyō's vision. They strive for artistry and individuality to achieve new heights in their works.

In 2019, 40 years after the foundation of the Makyō Ink Wash Painting Association, the 15th MAKYO Art Grand Prix International Exhibition has been opened to the international public to join with the purpose to strengthen cooperation with Japanese art groups and to develop an even more international exchange on art as such, and on the same original principles and goals the association has been renamed as MAKYO Art Association.

## 1979年 馬驍水墨画会設立

場所：静岡市

## 1980～1987年

### 第1回～第6回馬驍水墨画会会員作品展

会場：静岡産業会館

- // 静岡中部県民サービスセンター展示室
- // 静岡谷島屋3F ヤジマヤ・ギャラリー

1991年：馬驍水墨画展示館開館 東京・東池袋  
馬驍水墨画会全国本部設立

1992年：馬驍水墨画会会員秀作展

会場：馬驍水墨画展示館

## 1993～1998年

### 第1回～第6回日中水墨画交流展

会場：東京芸術劇場5階展示ギャラリー（3回）

- // アメリカ（ロサンゼルス）・東方芸術センター
- // 中国国立上海美術館
- // 静岡県立美術館 県民ギャラリー A、B

### 歴代実行委員長

- 第1回 鶴田武良（美術評論家）
- 第2回 丁紹光（米国国際中国美術家協会会長）
- 第3回 程十髮（上海中国画院院長）
- 第4回 鄧林（中国東方美術交流学会会長、鄧小平氏長女）
- 第5回 北岡文雄（著名版画家、前日本美術家連盟理事長）
- 第6回 官布（画家、中国少数民族美術促進会会長）

## 2002年 展示会名称・テーマ

### 馬驍水墨画会新作発表展

会場：馬驍水墨画展示館  
題材・主題・表現の研究

## 2011年 展示会名称・テーマ

### 馬驍水墨画会作家選抜展

会場：東京中国文化センター  
作品の風格と視点

## 1999～2019年

### 馬驍芸術大賞展

#### 第1回～第15回展示会場

- 東京芸術劇場5階ギャラリー（第1回～5回）
- 埼玉会館（第6回）
- （財）品川文化振興事業団O（オー）美術館（第7回）
- すみだリバーサイトギャラリー（第8・9・11・12・13・14回）
- 東京中国文化センター（第10回）
- 国立新美術館（東京・六本木）（第15回）

## 1999 第1回：テーマ【創作の芸術性を追求】

実行委員長：味岡義人（松清美術館主任学芸員、美術史家）

## 2000 第2回：テーマ【私の芸術論】

——室伏哲郎先生の特別講演——

実行委員長：室伏哲郎  
(美術評論家、プリンツ21編集人、ジャポニズム美術館館長)

## 2001 第3回：テーマ【心の表現】

実行委員長：王荻地（水墨画家、馬驍水墨画会講師）

## 2003 第4回：テーマ【芸術との対話】

実行委員長：北岡文雄（版画家、前日本美術家連盟理事長）

## 2004 第5回：テーマ【書画同源】

実行委員長：増永広春（日本書家）

## 2005 第6回：テーマ【創作性と個性の挑戦】

実行委員長：渦尾延之助（埼玉県日本中国友好協会会長）

## 2007 第7回：テーマ

【趣味の水墨画から～創作と個性的な水墨芸術の道へ】

実行委員長：森友三雄（日本美術評論家）

## 2009 第8回：テーマ【東洋の美】

実行委員長：ワシオトシヒコ（美術評論家、詩人）

## 2011 第9回：テーマ【芸術創作の再現と表現】

顧問：陳達明（文学博士、大東文化大学講師）

## 2013 第10回：テーマ【日本人の心】

実行委員長：西村修一（彫刻家、日本馬術連盟理事）

## 2014 第11回：テーマ【各人が捉えた心象、 感動を追求、大胆な発想、創作性に富む】

実行委員長：水野渥（株式会社日貿出版取締役会長、美術評論家）

## 2015 第12回：テーマ【絵画・音楽・舞踊の関係】

実行委員長：中西舞（舞踊家、書道家）

## 2016 第13回：テーマ【歌舞伎と京劇の対話】

実行委員長：李文培（水墨画家）

## 2017 第14回：テーマ【抽象と具象】

実行委員長：マークエステル（フランス人画家）

## 2019 第15回：テーマ【日本の心・自由】

実行委員長：島尾新（日本美術史家、美術評論家、学習院大学教授）

馬驍水墨画会設立40周年記念

名称変更：第15回 MAKYO 国際芸術大賞展



第2回 日中水墨画交流展 ロサンゼルス東方芸術センター  
実行委員長 丁紹光



第2回 馬驍芸術大賞展 東京芸術劇場  
実行委員長 室伏哲郎